

# 「障害学生の語りが 学びを変える、社会を変える」

主催 2017年度トヨタ財団助成研究「障害学生のエンパワメントを促す当事者の『語りの映像アーカイブ』の構築」研究班（代表・瀬戸山陽子）  
共催 認定NPO法人健康と病いの語りディベックス・ジャパン

## <シンポジウムプログラム>

- 13:30～ 第1部：「障害学生の語り」ウェブページのご紹介  
瀬戸山陽子（東京医科大学／「障害学生の語り」プロジェクト責任者）
- 14:00～ 第2部：講演「高等教育機関における障害のある学生を取り巻く現状」  
中津真美（東京大学バリアフリー支援室・特任助教）
- 14:40～ 第3部：座談会「障害学生の語りが学びを変える、社会を変える」  
司会：瀬戸山陽子  
パネリスト（50音順）：  
川尻浩史（社会福祉学専攻・肢体障害）  
殿岡翼（全国障害学生支援センター・代表）  
中津真美（東京大学バリアフリー支援室・特任助教）  
皆川愛（看護学専攻・聴覚障害）  
矢野愛（外国語学専攻・視覚障害）

## ○「障害学生の語り」ウェブページについて

このたび、トヨタ財団助成研究「障害学生のエンパワメントを促す当事者の『語りの映像アーカイブ』の構築」研究班（研究代表者・瀬戸山陽子）は、DIPEX-Japan と協働し、障害をもちながら大学などの高等教育機関で学んだ経験をもつ 33 名の男女（女性 14 名・男性 19 名）のインタビューを収録した「障害学生の語り」ウェブページを公開いたしました。

障害学生は、近年増加傾向にあり、障害別の支援事例なども蓄積されつつあります。しかしそれぞれの人の障害は多様で、大学側の受け入れ体制や、支援に関しても差があります。また大学は、全ての学生にとって、自由に学ぶ場であると同時に、様々な人と関わり、自分自身について考えて、成長していく場でもあります。

このウェブページは、障害のある一人一人が、大学進学に際して何を思い、在学中にどんな体験をし、振り返って大学で過ごした時間がどのようなものだったかなど、様々なテーマごとに複数の人の体験談に触れることができるものになっています。

## ○「障害学生の語り」テーマ一覧

- 入学準備
  - 進路の選択
  - 大学選び
  - 入試の準備と実際
- 大学での学び
  - 合理的配慮をめぐる大学との対話
  - 授業や試験
  - 演習や実習
  - 海外留学
- キャンパスライフ
  - 寮生活や一人暮らし（準備中）
  - サークルなどの活動
  - アルバイトなどの活動
  - 就職活動
- 人間関係
  - 友人関係（準備中）
  - 教職員や通訳・ボランティアとの関係（準備中）
  - 障害を持つ人や患者会とのかかわり（準備中）
  - 親や家族との関係（準備中）
- 大学生活の振り返り
  - 大学生活で得たこと
  - 障害学生へのメッセージ
  - 大学や社会への要望

「進路の選択」というページを選んだときの画像

### 進路の選択

- ▶ 大学進学を確かめる
- ▶ 目指す職業で専攻を決める
- ▶ 障害や福祉について学ぶ
- ▶ 障害で不利にならない専攻を選ぶ

大学進学を確かめるかどうか

高校卒業後、大学等へ進学するかどうか、何を学ぶかは、その先の人生設計と大きく関わってきます。今回のインタビューでは、高校卒業後に直接大学に進学した人を中心にお話を伺いましたが、中には、まず専門学校に進学してから、のちに大学を目指した人がいました。最初に専門学校を選んだ理由について、小学校から特別支援学校（盲学校）に通っていた男性は、次のように話しています。



特別支援学校の高等科にあんまマッサージ、はり・きゅうの資格が取れる課程があった。自分に行きたいと思っていなかったが、親に泣きつかれて資格を取った

インタビュー1

このように特別支援学校には職業訓練のための上級課程（専攻科）が設置されている場合がありますが、近年専攻科への進学者数は減少しており、大学に進学する人が増えています。

一方、直接大学に進んだ人に進学を決めた理由について聞いたところ、次の男性は、普通学校に通っていた周囲が行くから行くものだと思っていたと話しています。



大学進学を考え始めた時期は覚えていないが、小学校から地域の普通学校に通っていたので、みんなが行くから行くものだろうと思っていた

インタビュー01

日本では近年大学への進学率が高くなっており、「大学全入時代」とも言われます。その一方で、特別支援学校からの大学進学率は、特別支援学校の障害種別により大きな差があります。出身校の違いは、大学に行く理由に影響しているようでした。

次の肢体不自由の女性と、聴覚障害の男性は、高校が特別支援学校で、明確にやりたいことがあり大学に進学したことを話しています。



脚本家になりたいという夢があり、それが大学に行きたいと思った最初のきっかけだった。大学に行き視野を広げる経験をしてみようと思った

インタビュー10



ロボットを作りたいと思い、ロボットを作るにはどうしたらいいかと高校の先生に聞いたら、まずは大学に行って研究室に入るのがいいとアドバイスをもらった（筆談）

インタビュー21

## ○ディペックス・ジャパンとは

「健康と病いの語りディペックス・ジャパン」（通称：ディペックス・ジャパン）は、英国オックスフォード大学で作られている DIPEX をモデルに、日本版の「健康と病いの語り」のデータベースを構築し、それを社会資源として活用していくことを目的として作られた NPO 法人です。

「健康」や「病い」は、医学・生物学的な問題であると同時に、当事者（患者・家族）にとっては、心理的・社会的・経済的な問題とも深く関わる事柄です。従って、その解決には多様なアプローチが必要になります。ディペックス・ジャパンの活動が、患者やその家族の協力はもとより、医療専門家や医学研究者だけでなく、多彩な職業背景をもつ、さまざまな世代の人々により支えられ、発展してきたのは当然のことです。患者・家族が語る病いの体験を収集し、科学的・学術的な方法と理論を基盤に、市民の感覚と価値観を大切にしながら分析し、その成果を広く社会に還元することが、より良い医療を実現する近道であると、ディペックス・ジャパンは考えています。

今回の「障害学生の語り」ウェブページは、この、体験した当事者の語りを社会に活かすというディペックス・ジャパンが用いている方法により、障害をもちながら大学などの高等教育機関で学んだ人たちの体験を活かそうと考え、生まれました。

ディペックス・ジャパンは特定の製薬会社からの資金提供は受けていません。2013年に東京都より「認定NPO法人」の承認を受けましたので、ご寄付は税制優遇の対象となり、寄付金控除等を受けていただくことができます。

認定 NPO 法人 健康と病いの語りディペックス・ジャパン  
〒103-0004 東京都中央区東日本橋 3-5-9 市川ビル2階  
電話 03-6661-6242 ファクス 03-6661-6243  
電子メール question@dipex-j.org  
ホームページ <https://www.dipex-j.org>

## ディペックス・ジャパンウェブサイトのトップページ

